



～つながることの大切さ～

8月下旬、全国各地でたくさんの方が観たのではないだろうか。

今年で46回目となる『24時間テレビ 愛は地球を救う』は、福祉の実績や支援の必要性などを沢山のの人に伝え、推進するために放送されている。今回は“明日のために、今日つながろう”をテーマに、障がいのある方や高齢者、また環境保護やボランティア活動、福祉関連など、様々なあらゆる分野で活躍されている方々の一人ひとりが皆主演となり、1つのチャリティー番組として完成している。毎年、夏の恒例行事のように24時間テレビを観ている私は、今年も自然とチャンネルを合わせテレビの前に座った。

24時間テレビの内容は毎回どれを観ても、感動したり、嬉しくなったり、色々と考えさせられる。

車椅子の少年がプールでウォーターショーをしたり、骨肉腫になった少年が大好きなサッカーを諦めずに続け再び試合に出てゴールを決めたことや、障がいがある6歳の少女が自分も誰かの役に立ちたいとボランティアに挑戦したり…、そして耳の不自由な子どもたちが、あるインド映画の有名なダンスを披露したコーナーもあった。耳が不自由なため伴奏や合図が聞こえないにも関わらず、シンクロダンスやペアダンスなどを62名という大人数で揃って素晴らしいパフォーマンスをやり遂げた。

演技終了後、メンバーの1人のAさんが全国の視聴者に向けてこう伝えた。

「もし街で私たちみたいな人に会ったとき、大きな声で大きく口を動かしてもらえると、私たちともコミュニケーションを取ることができます。ぜひ皆さん、(耳が)聞こえない人とも積極的に話してくれると嬉しいです。」と。

Aさんが言ってくれたことは耳が不自由な方だけに限らず、他にちがう障がいがある方や、高齢の方、妊婦さん、国籍が違う方など、どんな人でも街で出会ったり困っていたりしたら、話しかけてほしいという“願い”だと思う。もし、自分が逆の立場であっても知らんぷりされたら嫌だと思うし悲しくなると思う。我が身に置き換えて考えるとAさんたちの気持ちは、すぐに分かることだ。

24時間テレビは、どのコーナーも皆が協力しあい素晴らしい成果や結果を生み出し、完成している。そう、全て1人では不可能であり出来ないことだと思う。

いつもの変わらない日常でも、一人ひとりが手を取り合うように支え合っていたら、世界は本当の“絆”を持つことが出来るのではないだろうか。

“明日のために、今日つながろう”という思いは本当に大切であり、永遠のテーマでもあると思った。

PN. ミーさん

